

序

2003年10月(平成15年)に、日本ペインクリニック学会の「ペインクリニック治療指針第1版」が発刊されてから15年以上が経過し、今回、改訂第6版の発刊に至った。まだまだ痛みの治療指針としては十分ではない点多々あると考えている。

2011年以降、ペインクリニック学会において、ガイドラインが多数発刊された。「インターベンショナル痛み治療ガイドライン」、「がん性疼痛に対するインターベンショナル治療ガイドライン」、「神経障害性疼痛薬物療法ガイドライン」、「抗血栓療法中の区域麻酔・神経ブロックガイドライン」、「非がん性慢性疼痛に対するオピオイド鎮痛薬処方ガイドライン」、「慢性疼痛治療ガイドライン」など、多くの痛み治療の基盤となる指針、ガイドラインを上梓し、エビデンスに基づき Minds に則ったガイドラインが揃ってきた。

以上のことから、「ペインクリニック治療指針第6版」では、2006年発刊の第2版から第5版まで継続されていた文献のエビデンスレベルの表記を終了し、痛みを俯瞰することのできる EBM と NBM の両方を併せ持ち、実際の診療に役立つペインクリニック治療指針にすることにした。

これからも多くの方々のご意見・ご批判をいただきながら、学会会員に役立つ内容へ改訂を重ねていく予定である。また、将来的には、会員のみならず、痛み診療に携わるすべての医療関係者が、最初に参考にする治療指針となるように内容を充実させていく予定でもある。また、これと並行して、「Minds」に沿ったガイドラインをさらに改訂・充実させ、治療指針とガイドラインの2本立てで皆様の診療に役立つようにする計画である。

本治療指針は、ペインクリニック診療の標準化を一つの目的として作成し、あくまでもペインクリニック診療における臨床的判断を支援するもので、痛み診療に携わるすべての医療従事者に履行を義務づけるものではない。臨床の現場では本治療指針と内容が異なる治療を必要とする患者がいることは当然であり、それを制限するものではない。

今回の改訂に様々なご教示をいただいた日本ペインクリニック学会会員の皆様および執筆の労を執っていただいた日本ペインクリニック学会治療指針検討委員会の委員とその協力者の諸先生に心から感謝申し上げます。

2019年(令和元年)7月

一般社団法人日本ペインクリニック学会
治療指針検討委員会
委員長 安部洋一郎